

せいかつ百科

木の枝や雑草の処分方法について

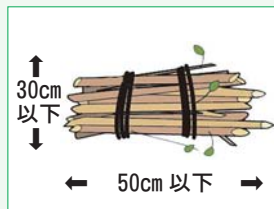
庭の植木や芝生など緑鮮やかな季節となりました。今回は、庭木の手入れ後に出た剪定枝や雑草の処分方法について紹介します。

●庭木の剪定枝●

剪定した庭木の枝は、指定ごみ袋に入れずに燃えるごみとしてステーションに出すことができます。次の点に注意してください。

①1本当たりの太さが10cm以下の枝であること

②剪定した枝を、長さ50cm以下、直径30cm以下の束にして、ひもで縛る（針金などの金属で縛らない）



③散乱しやすい小枝、葉

などは指定ごみ袋に入れる

※剪定枝ではない木材（角材、板、木片など）、竹やアシなどは指定ごみ袋に入れて出してください

●庭の雑草●

庭の手入れをした際の雑草は、指定ごみ袋に入れて燃えるごみとしてステーションに出すことができますが、ちょっとした工夫でごみの量を大きく減らすことができます。

ごみ減量・3つのポイント

①きちんと土を落とす

②よく乾燥させてからごみ袋に入れる

朝の涼しい時間に草取りをして、天日干しをしてから夕方にごみ袋に入れましょう。

③天日干しが困難なときは、ごみ袋の口を開けたまま数日陰干しする

これらの工夫で、ごみの量を3分の1から3分の2程度まで減らすことができます。ぜひ、実践してみましょう。



■問い合わせ＝本庁生活環境課
生活衛生係（内線 215）、各総合支所市民環境課

We support the **ilc**

希望の ひかり

第55回

ILC（国際リニアコライダー）計画の各種最新情報をお届けします

東北ILC推進協 要望決議を採択

ILC計画を成立させるための条件の一つは、ヨーロッパからの経費分担であり、そのためには、ヨーロッパの素粒子物理学の戦略にILC計画を盛り込むことが必要です。この国際計画にILC計画を



達増拓也知事や小沢昌記市長などが決意表明

盛り込むためには、本年中に日本の官邸・政府中枢が、海外の政府に対して、ILC日本誘致に前向きな方向性を打ち出すことが必須条件となっています。

このような情勢を踏まえ、東北ILC推進協議会は、5月10日、仙台市内で本年度の総会を開き、日本政府がILC誘致へ前向きな態度を表明することを求める決議を採択しました。

また、総会後、東京大学素粒子物理国際研究センターの山下了特任教授が講演し、「政府を動かす最大のポイントは全国的な周知である。年内の態度表明には、夏までに全国的な応援を広げることが必要」と語りました。

ILC Supporters

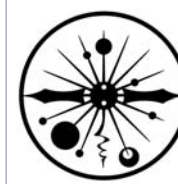
「ILCサポーターズ」は、ILC特設サイトとフェイスブックやツイッターなど公式SNS開設による発信を通じてサポーターを増やし、情報を広く拡散することで草の根的な国民的支援を喚起することを目的に発足しました。



4月16日、発足記者会見の様子



小沢市長の手にもサポーターズのロゴが！



ILCサポーターズの一員である、カンヌ国際広告祭のサイバー部門最高賞「銀賞」受賞歴もある森本晃司氏のデザインによるロゴマーク。ビッグバンをイメージ

公式ウェブサイトのQRコード→SNSなどでシェアしてね！



ILC講演会

「誘致の現状とILCが目指すもの」

今回の講演会では、東北ILC準備室の鈴木厚人室長を講師に招き、ILC誘致の現状などについて講演していただきます。今年は、ILC実現に向けて極めて重要な年。本市から全国へ向け、地元の熱意を発信しましょう！



■日時 7月6日 15:00～16:30（開場14:30）
■主催 （一社）国際経済政策調査会、いわてILC加速器科学推進会議
■会場 市文化会館（Zホール）中ホール

■講師 鈴木厚人氏（東北ILC準備室室長・県立大学学長）
■申込方法 必要事項（氏名、参加人数、電話番号）を記入し、申込先にメールまたはファクスで提出
■問い合わせ・申込先 本庁ILC推進室（内線442、☎2533、✉ilc@city.oshu.iwate.jp）

暑さが増してまいりましたが、いかがお過ごしですか。スポニチいわて奥州きらめきマラソンが開催され、全国から集まったランナーが、新緑映える奥州路を駆け抜けました。沿道からのたくさんの方の声援やおもてなしで、ランナーは楽しめたと思います。大会を支えてくださった皆さんに、この素晴らしい大会をさらに良いものにして、全国に発信してまいります。

米国人文化人類学の権威であるエル・キース・ブラウン博士に市勢功労表彰を授与しました。ブラウン博士は、旧水沢市真城などで50年以上にわたり農村社会史や武家制度を研究し、その成果を研究書「SHINJO」として出版。その研究成果は米国の文化人類学の貴重な資料となつてい



ます。水沢のことが大好きなブラウン博士です。いつまでも交流を続けていただきたいと願っております。

8月14日に、「大相撲奥州場所」が市総合体育館で開催されます。大相撲巡業は、市内では19年ぶりの開催となります。同体育館などでチケットが発売されています。ぜひお買い求めください。

地域おこし協力隊として東京都出身の小川ちひろさんと横浜出身の田名部茜さんの二人に委嘱状を交付しました。小川さんは台湾向けの交流促進を、田名部さんは農業体験など体験型コンテンツを担当します。市の魅力を積極的に海外へ発信し、誘客に結び付けていきたいと思っています。

4月に開催された協働のまちづくりアカデミーの開講式には、自薦や地区振興会や各種団体から推薦を受けた15人が受講しました。アカデミーでは、地域課題解決のための実践活動や演習を行います。まちづくりの中心メンバーとしての活躍を期待します。

奥州市長 小沢昌記